

ユリシーズ

ULYSSES

1922 | ジェイムズ・ジョイス



ミスター・レオポルド・ブルームは好んで獣や鳥の内臓を食べる。好物はこってりしたもつつのスープ、こくのある砂糖、詰めものをして焼いた心臓、パン粉をまぶしていった薄切りの肝臓、生鮭子のソテー。なかでも大好物は羊の腎臓のグリルで、ほのかな尿の匂いが彼の味覚を微妙に刺激してくれる。

九谷オー・永川玲二・高松雄一訳 |『ユリシーズ』| 集英社 2003 | p.139



- ・『ユリシーズ』に描かれるのは1904年6月16日に起きた出来事。これはジョイスと、後にその妻となるノーラ・バーナークルとがはじめてデートをした日だった。
- ・毎年6月16日はジョイスの記念日として、アイルランド、ヨーロッパ、アメリカやその他の国々で祝祝がされている。主人公のレオポルド・ブルームにちなんでこの日は「ブルームズ・デイ」と呼ばれ、講演会やパフォーマンス、パブめぐりなどをしてファンがジョイスを祝う。
- ・ブルームはいつもじやがいものお守りをポケットに入れていた。
- ・ブルームは娘のミリーが27歳の誕生日にくれたマスティッシュ・カップ[口ひげ用カップ]から紅茶を飲む。1860年代に発明され、ヴィクトリア朝の後期によく使われたマスティッシュ・カップは、半円状の縁がカップの一端を覆うことで、お茶を飲むときに口ひげが濡れるのを防ぐようになっていた。